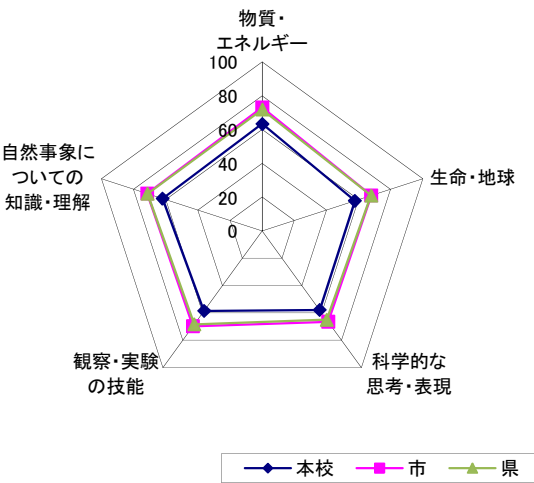


宇都宮市立御幸が原小学校第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.4	73.1	71.8
	生命・地球	57.7	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	57.9	66.5	65.0
	観察・実験の技能	58.6	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	62.0	71.6	71.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	●領域における平均正答率は63.4パーセントで、県・市の平均を大きく下回っている。設問全体を通して、てんびんや虫眼鏡の正しい使い方、電気の通リ道、磁石の性質など、実験で学ぶことの定着に課題がみられる。	・理科の学習の基本的な流れ(学習問題→予想→実験→結果→結果から分かること)をしっかり授業で行い、理科の基礎、基本の定着を図っていく必要がある。その際、実験で使う器具の使い方や実験の理由のまとめ方などを、きめ細やかに指導していく。また、自分で単元のまとめをノートに書くといった学習活動も取り入れ、基礎、基本の定着を図っていく。
生命・地球	●領域における平均正答率は、57.2パーセントで県・市の平均を大きく下回っている。昆虫と植物、自然の観察、太陽と地面の様子などの設問においても正答率が低くなっており、それぞれの単元の知識の定着に課題がみられる。	・理科の学習の基礎となる自然体験活動を充実するために、児童の野外での発見や気づきを学習に生かせるよう、積極的に観察を取り入れる。さらに、そのことを個人の学習にとどめず、クラス全体で話し合うなど、友達の意見を聞くことによって、自分の知識を深めていく授業を展開させていきたい。また、児童の「なぜ」や「ふしぎ」というつぶやきをとらえて、自然や動植物、太陽、月、星といった日常何となく目にしてしているものの事象に注目させ、その変化に気付かせるような授業に取り組んでいきたい。